

生命体Xへの転生

蟲鳥獸

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

俺は気がつけば、地下空間でフワフワと浮いていた。

最初は何が起きたのかと混乱したが、時間と共に落ち着いて、何が起きているのかを理解した。

そのまま数年程の月日を、フワフワと頑張つて暮らしていたが、突然の脅威が現れた。

逃げて、逃げて、逃げて、驚異の嫌う極寒の地で、ひつそりと暮らした。

毎日のように空を見上げ、フワフワと過ごしていたら、1つの隕石が驚異の地へと、落下していくのが、見えるのだつた。

目

次

第
3
話

第
2
話

第
1
話

5 3 1

第1話

俺はクロス、転生者だ。

前世で上司に無理やり連れていかれて、飲めない酒を無理やり飲まされた結果、死んで今の状況に至っている。

最初転生した時は何が起きたのか、思考の交雜が起きたが、それは過去の話だ。

今の問題はどう生き残るのか、という事に重点を置いている。その為には、俺自身の現状を説明させて貰おう。

現在俺が居る場所は『惑星S R 3 8 8』と呼ばれる星の極寒の地だ。元々は暗い地下空間で目覚めて、数年程その場所で、種の繁栄の事しか頭にない仲間達と一緒に、静かにゆつたりと暮らしていたが、とある事情から色々と察して、今のこの場所へ避難した。

居る星が、居る星なので、存在しているのか分からず、不安を感じていたが、どうにか見つけることが出来て、ホツとしたのを憶えている。

そして極寒の地は、俺の種としての天敵にとつて、大つ嫌いな土地である。つまり天敵は寒さに弱いのだ。

さてここまで説明すれば天敵が何なのかは、理解する事が出来るだろう。

その天敵の名は『メトロイド』である。

そうなれば、俺の種も分かるだろう、俺は『X』に転生した。
Xとは何か、本格的な説明は長くなるが、簡素に行けば『アメーバで寄生して宿主を模倣する』となるだろう。

何故Xに転生したのかを問われると、まあ俺を担当した神のせいだ。

当時の状況を再現するならこうだ。

「あ、メンドくせえ。適当でええやろ。ポチッとな」

こんな感じだ。

俺の意見を聞く事も無く、適当にパソコン的な何かに入力して、気がつけばXだよ。

まあなつたものは仕方が無いと、今を必死に生きておりますと…
はあ。

さて話しを変えて、俺はこの極寒の地で、チャンスを待っていた。
何のチャンスかというと、この惑星から脱出するチャンスだ。
何故なら、この惑星はあと何年か経つと、木つ端微塵に爆散する事
になる。

この世界の歴史は、詳しくないが知っている。

なんせ前世で見ていたからな、やつた事は無いけど。気になつて、
調べた事もある。

この世界はゲームの世界である。ただし今の自分にとつては、現実
の世界である。

『メトロイド』前世でそう呼ばれる、天敵の名を持つゲームだ。
話すと長くなるし、現實と化した今だと、どうでもいい事なので、割
愛させて貰うが、この惑星が爆発四散する事になるのは、『メトロイド
フュージョン』と呼ばれる作品となる。

この作品は、俺が産まれて死ぬまでに販売されたメトロイドシリー
ズの時系列で、最新の歴史となつていた筈だ。
まあゲームの話はここまでにして、本題へと進んでいく事としよ
う。

第2話

んで、本題に入ろう。

今日の今し方、隕石が降ってきた。

いや隕石と言うのは違うだろう、正確には宇宙船がこの惑星へと舞い降りた。というのが正しいのだろう。

目が良い生物に擬態していたとは言え、遠目からだつたので、船の形状がハツキリと見えず確証は持てないが、着陸した宇宙船は、この世界の主人公の船である『スターシップ』と考えて間違いないだろう。ここで教えておくが、今の俺が擬態できるのは『グルグ（青、ピンク、赤）』『グロー（緑）』『ラムキ（赤）』『ナード（緑）』『グロバル（黒）』『モーション（紫）』『モヒーク（紫）』『鳥人族（標準）』の以上12種となっている。

特に鳥人族は仲間の誰一体として、入手していなかつたので、手に入れるのが大変だつた。

鳥人族と言えども手に入れたのは技術者としての鳥人族だつたので、現物を入手する事は叶わなかつたが、材料と施設さえあれば作る事は可能だ。

それと担当の神はアレだつたが、転生特典的なモノは貰つている。名前が分からないので、この特典に非常に似ている力から『自己の本棚』と呼ぶ事にしている。

名前の元ネタは分かる人には分かるだろう、仮面ライダーWの登場キャラクター『フイリップ』が使用する『ほし地球の本棚』である。

まあ、フイリップの扱う本棚は地球規模なのに對して、俺のは個人規模なので、言わば下位互換に過ぎないのだが、完全記憶能力よりかは利便性は上だと考えていい。

何せ記憶を本にして、封印する事で忘れることが出来るんだからな。

思い出しだければ、いつでも思い出せるつているのがポイントだ。

また種族としても、非常にマッチしていると言えるだろう。Xは、少ない遺伝子情報などから、知識や記憶を完全再現可能だからだ。

ここまでで、何が言いたいのかを説明するなら、『地球の本棚』以下の『完全記憶能力』以上と言う事だ。

とりあえず『モーフ・ボール』の秘密は、禁書指定して最奥にしまつておきますね。

ずいぶんと話を脱線させてしまったが、話を戻すことにし、現状の少ない判断材料から、導き出した俺の予想では『メトロイドⅡ』が始まつたのではないかと考えている。

つまりここは1つの分岐点となつていてる。

俺の行動1つで簡単に歴史が変わる特異点と言う訳だ。

1つ最初に考えていた計画通りに、サムスの船にこつそりと乗り込んで、サムスの知らぬ間に他の星へと密輸入させて貰う。

2つサムスに鳥人族の生き残りとして接触し、共に脱出させて貰う。

3つサムスに鳥人族の生き残りとして接触し、メトロイドの真実を話し、共に脱出する。

4つサムスに鳥人族の生き残りとして接触し、メトロイドの真実を話し、この場所に残る。

5つ干渉せずに次に何者かが、この地へ来るのを待つ。

現段階で考えられる5つの選択肢だ。

正直サムスが来る前にスペースバイレーツが、この惑星に来た事はあるが、着陸場所まで、行く気にはなれなかつた。天敵が多いからな・・・

しかし今なら、サムスが天敵を一匹になるまで減らしてくれる筈なので、天敵に出会う事を心配せずにサムスの宇宙船『スターシップ』まで接近しやすい筈だ。

さすがに殲滅と言えども、サムスは1人だから、何匹か残るだろうが、それでも群で来ないなら脅威度は下がる。個でくるなら幾らでも、対処方法を考えられる。

・・・ふう、話しが逸れていきそうなので、選択肢の考えに戻る事にする。

第3話

さあ選択肢に戻る。

まず1つ目の選択肢だが、これは考えるまでも無く論外だろう。何故なら、その惑星にしか存在していない未知のウイルスとかが、星間移動によつて全く免疫の持たない生物の居る星で広まるとか、そういう事が起きない様に、対策はされているだらうから、この手段は、考えるまでも無く却下だ。

次に2つ目となるが、成功率が低い。これには3つ目と4つ目もそうである。

『自己の本棚』で再確認した限り、サムスは『ベビー』と言うクイーンの資格を持つメトロイドを、スターシップに戻る事には、連れているだらうからだ。

サムスを騙せても、さすがに天敵^{メトロイド}までは騙せないだらう、と思つて見つかつた瞬間、チューチューしにくるに違いない。

それでもやる価値はあると考えても良いだらう。

続いて、3つ目と4つ目になるが、コレは歴史が確実に変わつてしまふだらう選択肢だ。

どういう風に変わるのか、全く想像がつかないが、宇宙はXによつて滅びる可能性が最も高確率な選択肢だと、考える事が出来る。

そしてサムスは自責の念を持つだらう、例え依頼だつたとしてもだ。

最後に5つ目だが、最も歴史が変わらない選択肢だと予想できる。そして脱出する事も、最も簡単だと、俺は考えている。

どう言う事かと言うと、このチャンスを見逃し何年か経てば、メトロイドフュージョンの始まりの一幕、サムスは政府の調査隊を引き連れて、またこの地にやつてくる。

その時をねらつて、調査員の1人に寄生するか、なり変われば良い話だ。

何よりも半分機械化したリドリーから、遺伝子情報を簡単に入手で

きるかもしね。

さらにはメトロイドはクイーンを含めて、サムスによつて殲滅され、次世代のクイーンは、惑星外へとサムスが連れていつてくれる。一時的になるとは言えども、Xが惑星SR388の種の頂点に再び立つ事になり、暮らしやすくなるだろう。

デメリットは・・・無いな。暇になるか、と考えたけれど、メトロイドは居なくなるから、探索し放題になる。

飽きたらそれまでになるけど、この惑星の生物は、コンプリート出来ていないのでしておきたいとは思つて いる。

ううん、やつぱり選ぶなら最後の5つ目だよなあ。だつて絶対的な安牌だろうし・・・

でも面白みも無いよなあ・・・

・・・まあ深く考えても仕方が無いし、とりあえずスターシップがあるであろう地点まで急ぐとしよう。

現在いる位置から、スターシップ着陸地点（予想）まで、大分この場所は、かなり離れている。

擬態は鳥人族でいいか、機動力とスピードは高いからな。